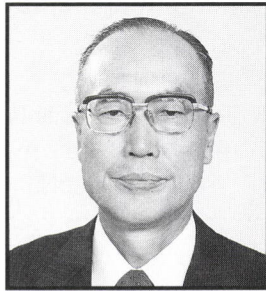


名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 上杉 年一 君

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、元山陽特殊製鋼株式会社代表取締役社長、上杉年一氏のご逝去の報に接し謹んで哀悼の辞を申し上げます。

氏は、昭和20年東京帝国大学第一工学部冶金学科卒業、昭和24年に山陽製鋼株式会社(後の山陽特殊製鋼株式会社)に入社、昭和36年に取締役に就任後常務取締役、専務取締役、代表取締役副社長、昭和61年には同社代表取締役社長に就任し、その後相談役を歴任しました。

氏は、卓越した先見性と実行力をもって、一貫して特殊鋼の高品質化と量産化技術の開発に尽力し、電気炉製鋼法では超高電力(UHP)を効率良く投入するプログラム、助燃バーナー、水冷炉壁、ガス攪拌などを組合わせた迅速溶解技術を確立し、先進諸外国にその技術を供与、この間電気炉の大容量化にも取り組み、特殊鋼専用炉としては当時世界最大級の160 t電気炉の迅速溶解技術を確立しました。

鑄造技術分野では、完全垂直型大断面連鑄機を導入し、軸受鋼を始め自動車用高級特殊鋼、ステンレス鋼等の連鑄化と安定生産に成功し、集大成として1997年には、1タンディッシュ1ノズルで軸受鋼11,500 tの連続鑄造の世界記録を達成させました。

品質分野においては、特殊鋼のなかでもとりわけ高荷重、高負荷にさらされる軸受鋼の寿命向上には酸化物系介在物の低減が必須との識見から、鋼中酸素の低減のために、偏芯炉底出鋼、取鍋精錬、真空脱ガス、完全垂直型連鑄機、断気鑄造など、あらゆる角度から技術開発に努め、真空溶解鋼に優る低酸素レベルの軸受鋼の量産化を成功させました。この技術は軸受鋼に止まらず広く特殊鋼全体の高品質化に先鞭をつけた画期的な開発であり、広く需要産業界の品質向上、コストダウンにも貢献しました。

このほか軸受鋼の継目無鋼管の製造技術の開発や連続球状化焼鈍炉の開発、鉛快削鋼の製造技術の開発など氏の業績は高級特殊鋼製造のあらゆる分野に互るものでした。

また、氏は本会の運営にも積極的に参画され、副会長として本会創立70周年記念事業を推進し、萌芽境界技術部門を設けて活動分野を広げるとともに、新しい研究会の発足、諸外国との二国間シンポジウムの開催など、産学協同の積極的推進、国際協力にも尽力されました。

これらの業績に対して、本会からは渡辺義介記念賞、渡辺三郎賞、渡辺義介賞を受賞し、昭和58年藍綬褒章、平成4年勲三等瑞宝章、昭和61年ASTM特別賞を授与され、平成12年に本会の名誉会員に推挙されました。

氏が鉄鋼技術と本会の発展に尽された多大なご業績を偲び、会員一同心からの哀悼の意を捧げ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成14年3月

社団法人日本鉄鋼協会 会長 王寺睦満